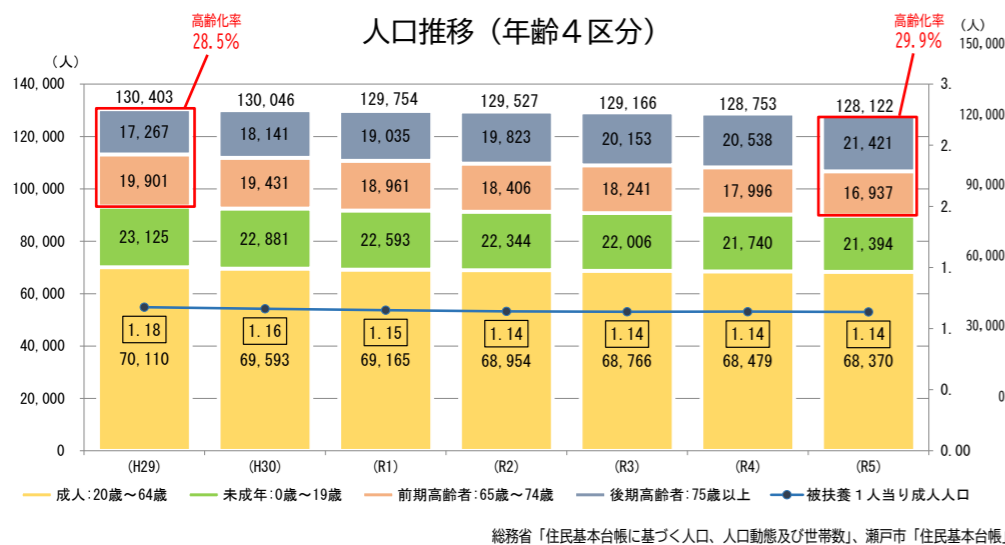


第6次瀬戸市総合計画期間中における人口及び社会増減の推移

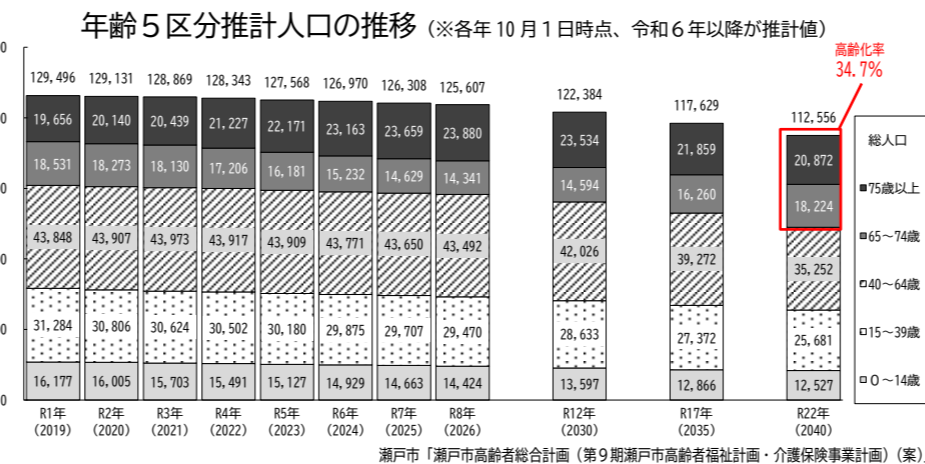
人口推移及び将来人口推計

- 令和5年1月1日現在の人口は128,122人であり、緩やかな減少傾向が続いています。また、高齢化率は29.9%であり、平成29年の28.5%から1.4ポイント上昇しています。
- 令和42(2060)年において約11.5万人の人口規模を確保することを施策による最大効果と捉えた将来人口推計に対しては、概ね推計通りの推移となっています。



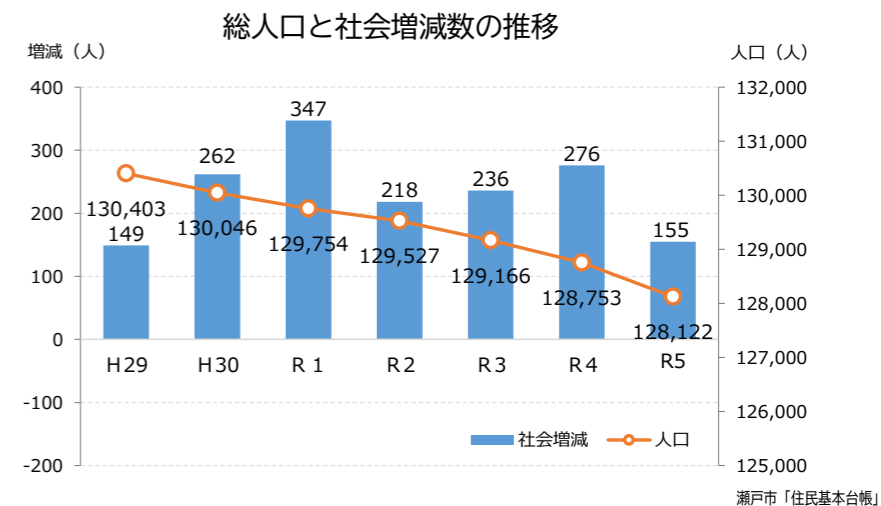
年齢区分別人口推移と連区別構成比

- 令和5年10月1日現在の高齢者人口は38,352人、高齢化率は30.1%となっており、高齢化率は令和8(2026)年には30.4%、令和22(2040)年には34.7%となる見込みです。
- 連区別の人口構成比は、連区によってばらつきが見られます。高齢者人口(65歳以上)の割合が最も高い連区は、萩山台連区(46.6%)、八幡台連区(45.7%)、品野連区(42.8%)となっています。

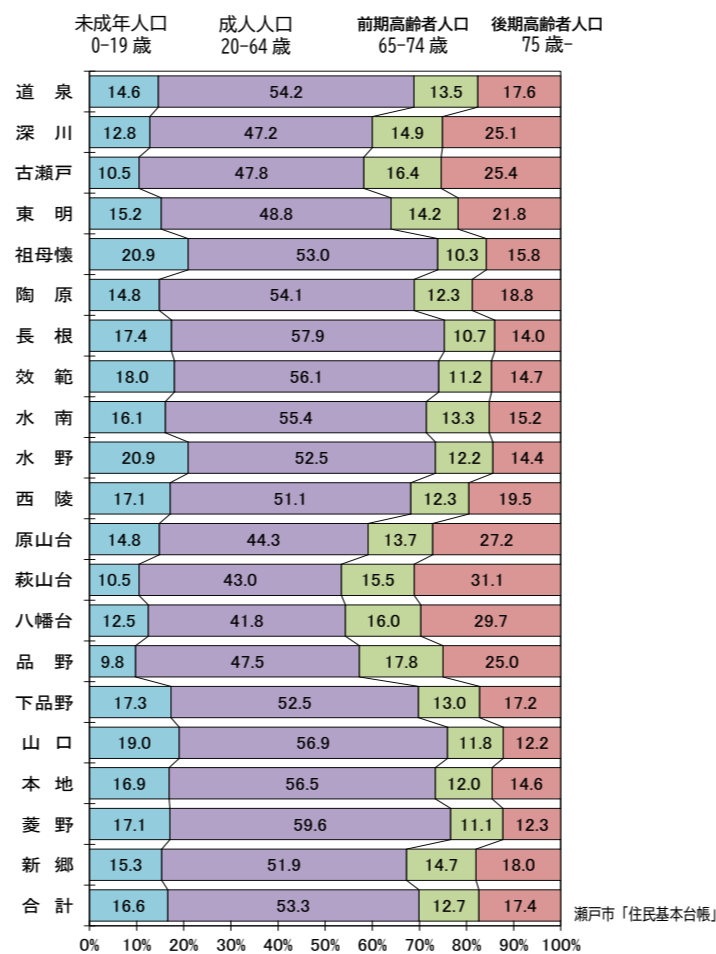


社会増減の推移と前年比較

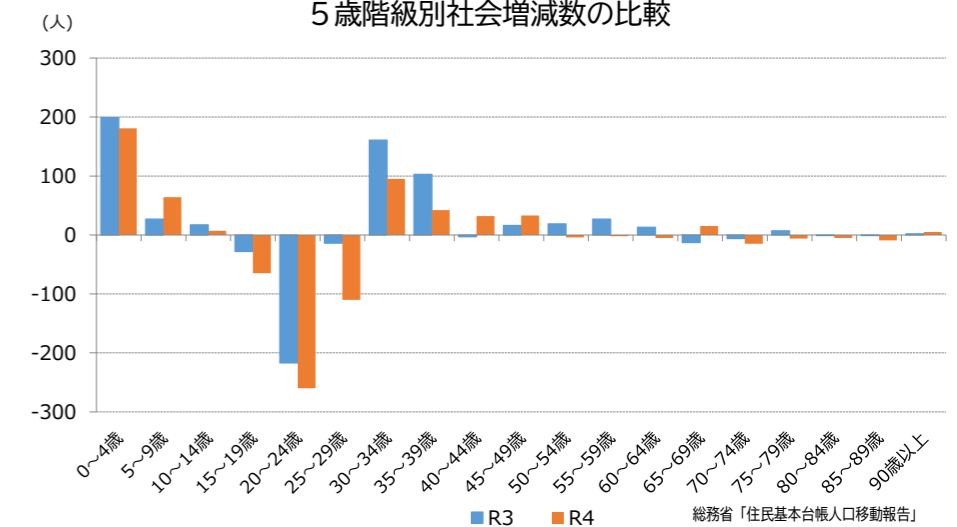
- 人口は緩やかな減少傾向が続いていますが、平成29年以降、社会増の状況が続いており、令和5年は155人の社会増となっています。
- 年齢別の社会増減は、就職・進学を迎える20代が社会減の傾向にあり、子育て世代である30代及び年少人口が社会増となっています。
- 国籍別の社会増減は、令和4年以降外国人が社会増に転じており、反対に日本人は社会減に転じています。



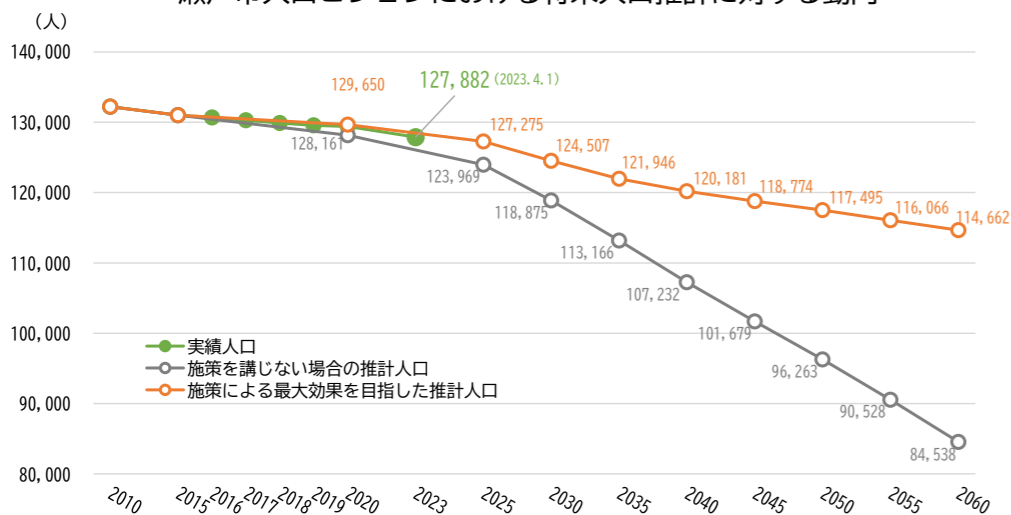
年齢4区分別人口の構成比【連区別】(令和5年10月1日時点)



5歳階級別社会増減数の比較



瀬戸市人口ビジョンにおける将来人口推計に対する動向



<参考> 日本人・外国人の社会増減数の推移

